

平成29年度放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）

第2回研究評価委員会

議事要旨

1. 日 時 平成30年2月26日（月）18：30～20：30

2. 場 所 原子力規制委員会 庁舎内

3. 出席者

外部有識者（五十音順）

占部 逸正 学校法人福山大学 工学部情報工学科 教授

小田 啓二 国立大学法人神戸大学 副学長

二ツ川 章二 公益社団法人 日本アイソトープ協会 常務理事

吉田 浩子 国立大学法人東北大学大学院 薬学研究科
ラジオアイソトープ研究教育センター 准教授

原子力規制庁職員

寺谷 俊康 放射線防護企画課 企画調査官

大町 康 放射線防護企画課 課長補佐

4. 議 事

(1) 平成29年度放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）に係る研究の評価

5. 配付資料

- ・ 採択課題の評価について
- ・ 平成29年度研究成果報告会 研究代表者発表資料

議事要旨

- 今回の会合では、提案者の研究に関わるアイデア及びノウハウに係る議論をするため、研究評価委員会に関する設置運営要領第8条に基づいて非公開の扱いとし、議事概要のみを公表することとした。また、出席した委員は、会議資料を通して知り得たこと及び議論の経過について守秘義務が発生していることを確認した。

- 平成29年度に採択された13課題について、研究代表者の自己評価及び成果報告会における研究代表者からの報告内容を踏まえて、研究評価委員会として別紙のとおり評価結果を取りまとめた。

- 研究評価委員会は事務局に対して、取りまとめた評価結果について、研究代表者等に連絡すること及び研究推進委員会で報告することを指示した。

平成29年度に採択した課題 一覧

課題名	期間	研究代表者	所属	評価	研究評価委員会 総合コメント	継続の可否
短寿命 α 線核種の合理的規制のためのデータ取得による安全性検証と安全管理・教育方法の開発	2年	篠原 厚	大阪大学	A	今後の規制のためには貴重なデータになるので、緻密な計画を期待する。	継続
短寿命 α 核種等の RI 利用における合理的な放射線安全管理のあり方に関する研究	2年	細野 眞	近畿大学	B	現地調査の詳細が不明なので、報告には調査の成果を具体的に示していただきたい。調査機関を増やす理由を明確にすべきである。	継続
加速器施設の廃止措置に係わる放射化物の測定、評価手法の確立	2年	松村 宏	高エネルギー加速器研究機構	A	過去のマニュアルの内容にとどまらず、手法の標準化の段階まで進めることを期待する。	継続
原子力・医療従事者等の標準的な水晶体の等価線量モニタリング、適切な管理・防護はどうあるべきか？～水晶体被ばくの実態から探る～	2年	横山 須美	藤田保健衛生大学	B	医療施設における調査は特に重要と思われるため、更にデータを増やすことが望ましい。原子力施設との比較を行うためにも、分担者間の連携を強化すべきである。	継続
水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究	2年	千田 浩一	東北大学	B	線量については、specific な値をとるのではなく、できるだけ多くの病院でのデータを追加すべきである。	継続
内部被ばく線量評価コードの開発に関する研究	4年	高橋 史明	日本原子力研究開発機構	A	他機関の研究者との意見交換が望まれる。	継続
原子力事故時における近隣住民の確実な初期内部被ばく線量の把握に向けた包括的個人内部被ばくモニタリングの確立	3年	栗原 治	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	B	福島事故での教訓を取り入れるため、地方自治体からの意見聴取をおこない、新しいモニタリングシステムの標準化を目指していただきたい。	継続

事故等緊急時における内部被ばく線量迅速評価法の開発に関する研究	3年	谷村 嘉彦	日本原子力研究開発機構	B	現場で実際に利用できる実効的なシステムを構築することを期待する。	継続
眼の水晶体等価線量評価に用いる線量計の試験校正手法の開発	2年	加藤 昌弘	産業技術総合研究所	B	研究期間内での標準場の確立を確実に遂行すべきである。	継続
環境モニタリング線量計の現地校正に関する研究	1年	黒澤 忠弘	産業技術総合研究所	C	目的及び必要性に対する議論を再度行うべきである。	(1年)
「放射線業務従事者」としての「指定」の在り方に関する検討:原子力施設等と医療施設の比較	2年	草間 朋子	東京医療保健大学	B	膨大なデータの分析方法及びまとめ方に工夫が必要である。	継続
放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成	5年	神田 玲子	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	A	長期ビジョンを確立するため、年度計画に縛られることなく、柔軟に進めていただきたい。	継続
健全な放射線防護実現のためのアイソトープ総合センターをベースとした放射線教育と安全管理ネットワーク	5年	篠原 厚	大阪大学	A	既存の枠にとらわれることなく活動の幅を広げることが望ましい。 また、現場に根付いた課題をネットワークとして共有していただきたい。	継続

* 評価基準： A：一層の推進を期待、B：現状通り実施、C：計画を修正して実施、D：中止すべき